

平成30年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	小中一貫教育における、主体的・対話的で深い学びを実現する教材開発・活用事業
事業実施代表者名	附属釧路小学校長 内 山 隆 附属釧路中学校長 早 勢 裕 明
実施附属学校名	附属釧路小学校・附属釧路中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>今求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、児童生徒が学習活動において「協働する」ことが重要であり、そのためには、学習課題や自身の考え、その根拠等を、他者と「共有する」ことが必要である。</p> <p>本事業は、その学習課題や自身の考え、根拠等を「共有する」ための視覚的情報の教材化や、ICT機器の活用方法について研究するものである。</p> <p>具体的には、拡大掲示物（絵図）、書画カメラによるリアルタイムでの即時的な映像やiPadを活用して収集したり作成したりした情報の教材化、また、書画カメラやiPadといったICT機器の活用、これらについて、小中一貫教育（9年間）の中で、各教科等の特性や系統性、また子供たちの発達の段階に応じた効果的な方法について実践を通して明らかにしようとするものである。</p> <p>また、この取組は、「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けた手立ての構築、ICT機器の活用事例として、中期目標14・中期計画29にある「北海道公立学校教員の授業力の向上に寄与する」ことにもつながると考えている。</p> <p>そこで、これらの研究を推進するために本経費を書画カメラ及びプロジェクタ、iPadの整備、印刷経費として支出した。</p> <p>そして、これまで、拡大掲示物（絵図）は、生活科はもちろん、高学年の国語科と社会科、理科といった教科で、書画カメラは国語（書写）や算数科の活動場面で、iPadは理科の実験、体育科の動きや戦術確認、生活科や社会科での「校外学習」における情報共有等の場面で活用した。中学校では、今年度文部科学省から委託を受け、IE-School事業への参入している。本事業と関連させながら、全ての教科等において教育活動でのICT（特にiPad）の活用に取り組むと共に、技術・家庭科と美術科の合科的な取組や情報活用能力育成を目指す年間指導計画や体系表の作成を行ってきた。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>小学校においては、拡大掲示物（絵図）は、共有した情報に対する一人一人の考え等を書き込んだり貼り付けたりする活動を通して、対話が生まれ、深い学びを実現することができた。また、書画カメラやiPadについては、ロールスクリーンや大型テレビに投影された映像を目にするだけでなく、加筆したり修正したり、比較したりすることを通して、イメージや考えを共有したり深めたりすることにつながっていた。</p> <p>これらの結果は、学校評価においても、「主体的・対話的で深い学びを実現する授づくり」に係る質問に対し、保護者78.2ポイント、教職員87.5ポイントという結果としても表れた。児童</p>

	<p>を対象とした学校環境適応感尺度「アセス」における、学習適応に関する項目は、53.8ポイントであった。</p> <p>これらの実践を通して、発達段階というよりは、各教科等の目標や活動に応じて、適切な手法を選択し活用することが重要であることが明らかになった。</p> <p>また、中学校では独自に設定した情報活用能力の育成のためのアンケートにおいて多くの項目において上昇が見られた。特に「コンピュータや iPad を使った授業では、情報機器を使用しない授業より興味や関心を持って取り組むことができている。」「わからないことがあったら、辞書やインターネットなどの調べる方法を考えて、いろいろな方法で調べるようにしている。」の項目においては大きな向上が見られた。また昨年度同様、スクールサーベイにおいては「共同体的学習意識」において数値が昨年度より向上したことは、ICT 活用した授業の影響が少なからずあったと考えられる。</p> <p>さらに、iPad を活用した授業については、オープンデーの授業としても公開し、本校の ICT 活用に係る PR につなげることができた。また、IE-School の取組に関しては、報告書として市内管内等の学校に送付し、広く活動内容を周知することとしている。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述)</p>	<p>小中一貫教育（9年間）の中で、各教科等の目標や活動内容に応じ、学習課題や自身の考え、その根拠等を、他者と共有することで「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためには、一層の視覚的情報の教材化、ICT機器の環境整備を進める必要がある。そのためには、iPad は1人1台の配置、書画カメラ（プロジェクタ・スクリーン）は各教室に常設配備、拡大掲示物（絵図）作成に係る消耗品の確保について、実現・整備が継続的にできるように予算措置していきたい。</p> <p>本事業による「主体的・対話的で深い学び」が実現する教材やその活用方法については、ホームページ上で実践事例として随時、積極的に情報提供する予定である。また、中学校においては IE-School での事業報告内容についても地域に還元していく予定である。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>①附属釧路中学校 HP（平成31年2月中に掲載の予定） http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/</p>

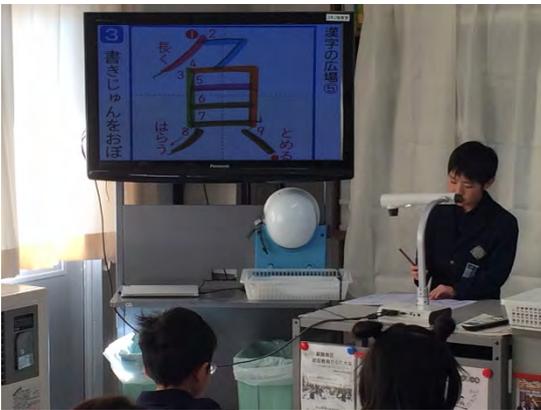
(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

(別紙1)
【拡大掲示物】

附属釧路小学校



【書画カメラ】



【iPad】



(別紙2)

附属釧路中学校

小中一貫教育における、主体的・対話的で深い学びを実現する教材開発・活用事業



保健体育科における ipad を活用し、互いの動きについて記録する場面



音楽科における ipad を活用し、BGM の種類を検討している場面



技術科美術科の合同における PC を活用した対話場面



社会科における「財政プログラム」における ipad を活用した交流の場面



社会科における ipad での交流の場面